

令和5年8月9日（水）
13:00～15:00

南相馬市

てんじんやち

天神谷地遺跡現地公開資料

天神谷地遺跡では、縄文時代後期から晩期、今から約3300～2800年前の建物跡や土坑、亡くなった小児を埋葬した墓跡、使用した土器などを廃棄した遺物包含層がみつかりました。

遺物包含層や土坑からは、おびただしい量の縄文土器、狩猟に使われた石鏃、魚採りに使われた土錘などが出土しており、縄文人の生活がうかがえます。また、祭祀や儀式等の祈りに関わりと考えられる異形台付土器や土偶などの土製品や、祭具とみられる石剣・石刀といった石製品もみつかっています。そのほか、身を装うための首飾りとみられる石製の玉や、棒状の骨角器（骨や角でつくられた道具）、土製の耳飾りなどが出土しています。いずれも、この地域に住んでいた縄文人の精神性や文化の豊かさやうかがえ、精巧な装飾が施された石剣の柄頭からは、当時の技術の高さを知ることが出来ます。



【異形台付土器】
詳しい用途は不明だが、儀礼に使用したという説がある。



【不明土製品】



【土偶？】
著しく抽象化されたものか？



【石刀・石剣の未整品・欠損品】
製作途中の品もあり、遺跡内で製作されたようだ。



【土偶の左足】



【石剣の柄頭】
精巧な装飾が施されている。

柄頭

営み

いとな

【土錘】
魚網のおもりと考えられる土製品。



【炭化した種】
クルミやドングリの可能性がある。
当時の主要なエネルギー源と考えられている。



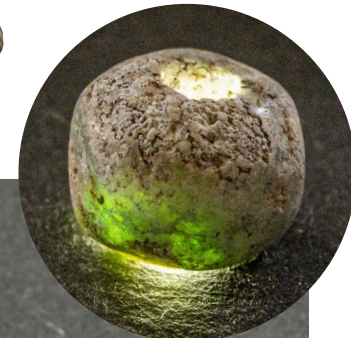
【注口付土器】



【骨片】
埋葬された人骨や、食料となった魚や動物の骨とみられる。



光が透過することから、ヒスイの可能性もある。



【土製の耳飾り】
耳たぶに穴をあけピアスのように使用した。



【石製の首飾り】
玉を紐で連ねてネックレスのように使用した。

- ・調査場所：南相馬原町区上北高平字天神谷地
- ・調査主体：福島県教育委員会
- ・調査面積：1,600㎡
- ・調査機関：公益財団法人福島県文化振興財団
- ・調査期間：令和5年4月～9月（予定）
- ・調査原因：主要地方道原町線川俣線（下高平工区）整備事業に伴う発掘調査

【石鏃】
矢の先にとりつける石製のヤジリ。



【製塩土器】
縄文が無い粗雑なつくりで、表面は被熱によるススや剥離が目立つ。いずれも製塩土器の特徴だ。

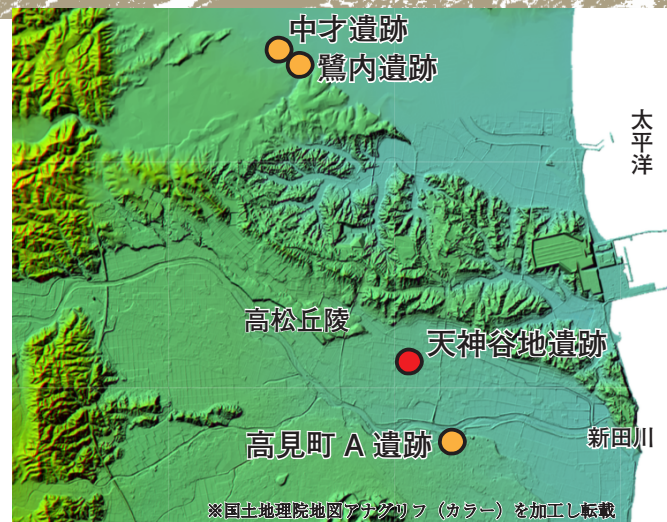
装い

よそお



【棒状の骨角器】
身を飾るアクセサリの一部と考えられる。

天神谷地遺跡遺構の配置図



南相馬市の縄文時代後晩期の主な遺跡



天神谷地遺跡を東側からみたところ



墓跡（土器埋設遺構）の土層



- 凡例
● 墓跡
● 土坑・柱穴



建物の柱穴



土坑・柱穴群の調査の様子



土坑・柱穴群の調査の様子



遺物包含層から出土した注口付土器



遺物包含層調査の様子



遺物包含層から出土した石製の首飾り



土坑から異形台付土器が出土したところ



遺物包含層から出土した注口付土器



遺物包含層から出土した石剣の柄頭